

# 門真市総合計画審議会 第3回審議会（第1部会） 議事録

場 所：門真市役所別館 3階第3会議室

日 時：平成21年9月10日（木） 午後2時～5時

出欠状況：審議会委員（五十音順） 敬称略

第1号委員（市民）

岡本修子・内藤弘子

第2号委員（学識経験者）

島 善信（欠席）・日高哲生・山本 純

第3号委員（関係行政機関）

森定一稔（部会長）

事務局：門真市総合政策部

部長 北口政昭 次長 稲毛雅夫

企画課長 水野知加子 課長補佐 小野直宏

係員 湯川みずほ・高田賢一

受託業者：株式会社かんこう 馬場明男

## 1. 開会（事務局）

## 2. 議事

（以後、部会長が議事進行）

案件1. 門真市第5次総合計画＜基本計画＞（案）について

◇事務局より門真市第5次総合計画＜基本計画＞（案）基本計画総論について説明

（本案に関する意見）

発言者	内容
委員	法人税は、どの収入項目に入るのか。また、一般会計なのか、特別会計なのか。国民健康保険や生活保護はどの歳出項目となるのか。
事務局	法人税は、市税項目に含まれ、この表は一般会計に限った収支の見込みである。国民健康保険は特別会計で、生活保護は一般会計の中で国等の財源を見込んだ扶助費に該当する。
部会長	7頁で水道会計が黒字でありながら連結実質赤字比率が高いということは、国民健康保険への持ち出しが大きいということではないかと思う。
事務局	表には表現をしていないが、国民健康保険特別会計も赤字を減らし健全化することを前提に、普通会計から国民健康保険特別会計への繰り出しという資金も含めて収支を見込んでいる。

部会長	国民健康保険については、各論の中に出てくるので、その中で議論したい。 15 頁の「オンリーワンのまちづくりプロジェクトの推進」とあるが、オンリーワンとは唯一という意味であり、何が唯一なのか分かりにくい。唯一である点を表現した方が分かりやすいのではないかと。
委員	「門真らしい」というように表現した方が分かりやすいのではないかと思う。
部会長	門真の良さを伸ばしていくということを考えれば「門真らしいまちづくりプロジェクトの推進」とした方が市民にとっては分かりやすいのではないかと思う。
事務局	「オンリーワン」の意味の中には、門真らしさを追求するまちづくりということも含んでいる。市としては「市の顔づくり」をしたいということで、「ナンバーワン」ということを使用せず、「オンリーワン」という言葉を使用した。市としての思いが「門真らしい」という言葉に置き換えられるか、検討をしたい。
部会長	他の部会とも関連するが、市民がイメージしやすい方向で検討願いたい。 1 頁で「わかる計画」として例示で「行政」を「市役所」と表現するとしながら、同頁の上に「…行政各部門において…」とある。その点の整合性を図るようにして頂きたい。
委員	「みんなが…」と多く使用されているが、「みんなが…」とすると漠然となり、誰かがやるということになり、逆に誰もがしないことにも結びついていくのではないかと思う。全部消すなどの対応が必要ではないかと思う。
部会長	市民と市役所と合わせて「みんなが…」と思い、特に、抵抗なく見たが。
委員	ここにある花は全部という意味での「みんな」は分かるが、「みんながする」ということは、自分もその一人だと思いにくく、誰かがするということになり、誰もしないということに結びつくと思うので、主語をはっきりさせてほしい。 市民の中には、まだまだ「市役所と市民がいっしょになって」というよりも、「なぜ市役所がしないのか」といった意識の方が強い市民も多く、「協働」を浸透させるには相当の時間を要すると思う。
委員	「みんな」というのは「できるかぎり多くの人が」ということや「誰もが」、「行政も市民も、企業など法人も含めた」ということなど、様々なとらえ方ができると思う。変える必要があるのかどうかも含め検討を頂きたい。変えないのであれば、「みんな」の前に補足説明的な文言を入れてはどうかと思う。
委員	子どもが何かを買ってほしい時に「“みんな”が持っている」という時の「みんな」のイメージをもってしまう。
委員	「みんな」を使用すると誰もがしなくなるというように決めつけるのは少し問題があるのかと思う。できるかぎり多くの人にボランティアなどをしてほしいという願望も含めての「みんな」の意味もあると思う。
委員	例えば、19 頁の「みんなの健やかな心と体を育む健康のまちをつくります」は良いが、「みんなで困っている人を助け合う福祉のまちをつくります」の「みんな」は分かりにくく、子どもっぽい表現である。大人が馴染むような言葉にすべきではないかと思う。
委員	「できるかぎり多くの人が」という意味でも捉えることができるということもあり、「みんな」というのは様々なとらえ方ができる。変える必要があるのかどうかも含め検討をしてはどうか。
事務局	門真未来市民会議では、小学生が読んでも分かるようにとの意見が多くあり、「みんなが」という分かりやすい言葉にした。意図する意味が伝わりにくいようなところは再度検討を行う。

部会長	「みんな」は市民にとって解釈の幅が広すぎるということであるので、解釈の幅がぶれないようにするか、どこかで、「みんなは、こういう意味です」など誤解を生まないように説明を付けてはどうかと思う。
委員	「みんな」は、市民「一人ひとり」、門真市民全員のことを言っているということを説明してはどうかと思う。一人ひとりが自分も「みんなの一人」であることが分かれば「みんな」でも良いのでないか。

◇事務局より門真市第5次総合計画<基本計画>（案）基本計画各論第2章について説明

（本案に関する意見）

発言者	内容
委員	第2章ではないが、第1章について意見を言わせてほしい。市役所の業務は、多様な業務が絡まっていると思う。また、業務の目的に応じて細かく分かれ過ぎているという印象をもっている。市民が分かりやすいという視点などから組織を考えてほしい。
部会長	26頁に記載されているように、市民にとってわかりやすい組織の改善や窓口サービスの改善などが施策としてあげられているので、この点を分かりやすくしていくことではないかと思う。行政の仕事をきっちりしようと思えば、責任者をできるかぎり細分して決めていくことになるが、一方で、狭間にある仕事ができにくくなったり、人の増員が必要になったりといった弊害もある。今の意見も踏まえ、分かりやすくなるよう、検討頂きたい。
委員	読書は、毎日、少しずつでも読書をすることにより、豊かな心をつくるなどさまざまな生きる力を身に付けることができる効果を実証されている。子どもの学びの意欲を育む目的を達成する指標として「読書運動に取り組む学校の数」や「正確な児童・生徒の数」を是非加えてほしい。
部会長	読書は、先人の膨大な知識を身に付ける有効な手段であろうと思う。
委員	基本計画案に記載されていることや読書についての意見は素晴らしいと思うが、これらの施策をどのように実現していくかが重要ではないかと思う。是非、実現してほしい。
部会長	読書を通じて算数などでも読解能力も付くので、読書は重要だと思う。読書に関することについて頂きたいと思う。
委員	教育は、保健所、警察、学校、家庭などがどのように連携し、協力して行っていくかが一番重要であると思う。施策はこれで良いと思うが、協力体制をどのようにつくり、実現するかが重要であると思う。 母親自身が子どもでありながら、中学生くらいでも子どもを産み、母子家庭になる場合が増えてきており、命の大切さを教えるとともに、自分自身の大切さを教える教育も重要ではないかと思う。
事務局	文部科学省や大阪府教育委員会との関連もあり、難しい面はあるかと思うが、教育委員会は子どもへの影響が多大であり、教育が重要な課題でありながら、この審議会に教育委員会関係者の参加が無いのが残念である。 教育委員会は、この計画に意見を言う立場ではなく、意見を聞き、事業を実施していく側の立場であると考えている。この審議会には本市の教育に関するアドバイザーである学識経験者も入っておられるので、教育関係者の参加はあるものと考えている。

委員	学校教育については市長も力を入れているところであるが、家庭での教育とも大きな関連性があり、家庭と学校がそれぞれどのようにしていけばよいか難しい課題であると認識している。
委員	私が育った時とは違い、最近の学校の先生は、服装、言葉使いなどが乱暴になっていると思う。子どもの手本になるというよりは、子どもと一緒にやってという印象を持ったので、自分の子どもは私学に行かせた。家庭での教育は大切だと思うが、施策の中の「研究授業実施」などにより教員の指導をどうされるのか関心がある。服装や言葉使いなど先生としての基本ができていないといけないのではないかと思う。
事務局	37 頁の「青少年を健やかに育む環境づくり」に市民や企業の協力を得て、有害環境を排除するとあるが、有害環境の要因となっている企業（店舗）などから、どのように協力を得ていくのか分かりにくい。 市役所としてできることは、実施に伴う効果などについて啓発し、協力を得ていくしかないと考えている。
委員	今までに行ったことはあるか。
事務局	人権の担当が中心となり、市内の企業で構成する団体などに出前講座を行うなど、青少年に特化してということではないが、さまざまなことについて啓発は行っている。
部会長	青少年の目につくところに有害な掲示や喫煙がなされているということが問題であるので、それらを排除していく働きかけと協力は重要かと思う。 子どもの教育について、子どもの優れた才能を伸ばそうとする視点がないのではないかと思う。記載することは難しい面もあるかと思うが、門真市の未来のまちづくりでは、子どもの優れた才能を伸ばし、将来のまちづくりに貢献してくれる視点も必要ではないかと思う。
委員	36 頁の「子どものしつけの厳しさがなくなる家庭が増え、…」とあるが、虐待との関連でみると、虐待していることはしつけであると思っている親もあるため、「しつけを厳しくする」と表現することにより虐待を助長してしまう可能性もある。「子どもを適切にしつけられない家庭」などに文章表現を変えた方がよいと思う。
部会長	文部科学省の教育方針などにもよると思うが、個性を伸ばす教育ができない環境になっているのではないかと思う。 全国的に底上げをするという教育が中心にきているので、この総合計画では、個性を伸ばすこともふれておく必要があるのではと思う。
委員	みんなの総合計画であるので、そのようなことを入れておくのが重要ではないかと思うので、是非入れてほしい。
委員	市民活動団体として小学生に音楽を聴いてもらおうと訪問をしたとき、子どもが落ち着いて聴かなく、先生も注意するような状況もなかった。絵画や音楽、読書など芸術・文化に親しむ環境がどうにかならないかと思っている。
委員	日頃から親しむ環境に無いからだと思う。門真市内でもブラスバンドに力を入れている先生もおられる。最近は無くなったが、発表会で親が弁当を広げて食べているといった光景もあった。スポーツにルールがあるように芸術・文化にもルールがあるが、なぜ浸透しないのかと思う。 門真もそうであると思うが、母子家庭では、親は経済的にも精神的にも不安定であり、鬱になる可能性が高く、子どもも不安定である。子どもに何か問題が起り、親に何か言うと親がパニックに陥り、子どもにも影響しているという場合も結構あるという話を他市で聞いたことがある。

委員	まずは、授業できちっと座っていただけるかどうかが課題である。これら教育に関する施策がどう活かせるかだと思う。
委員	家庭の教育に関連してくると思うが、学校の授業で市民が座っているだけでも変わらないかと考えている。市民がどのように参加してやっていくことができるかが大切だと思う。
部会長	子どもと高齢者の交流には参加者が集まらないという話を聞いたが、何か言わないといけないということよりも、碁や将棋など子どもと遊ぶという感覚でよいのではと思う。市役所もそのような観点で募集すれば、もう少し集まるのではないかなと思う。 私たちは座って授業をすることは当たり前であったが、今は、それが当たり前では無くなっている。家庭での教育も大切であるが、保育所、幼稚園での教育も影響していることも考えられる。就学前の教育についてもしっかり記載して頂きたい。

◇事務局より門真市第5次総合計画<基本計画>（案）基本計画各論第3章について説明

（本案に関する意見）

発言者	内容
委員	若い世代の移住意向が強い原因をしっかりと分析し、高齢者ばかりのまちにならないようにしていく必要がある。
部会長	市税負担が少ない若い時に門真市に住み、一定期間住んだ後、市税寄与を期待する時になれば他市に出て行くという困った状況が門真市で続いているのではないかなと思う。是非、きちっと分析し、まちが空洞化しないよう、定住のまちとなるよう、施策を展開してほしい。

◇事務局より門真市第5次総合計画<基本計画>（案）基本計画各論第4章について説明

（本案に関する意見）

発言者	内容
委員	市民活動団体において音楽イベントなどを行っている。市外からは熱心な参加者があるが、市内の参加者はそうではなく、むなしい思いをしている。最近は企業の協力も得られるようになってきたが、チケットもあまり芳しく捌けなく、広報で1回くらい載せてもらうくらいでそれ以外の行政の協力が得られない。ボランティア活動がせっかく育ってきているので、もっと協力して進めていけないかと考えている。昨年もチケットの販売が芳しくなく、市役所の中でチケットの販売を考えたが、費用が要るということで断念した経緯もある。せっかく、文化・芸術の発展に寄与していると考えているにもかかわらず、協力体制があまりないと思う。市民活動を育成していく環境づくりが大切だと思う。
事務局	市の企画課としては、ホームページ等で紹介したり、府のミュージアム構想に登録するなど、長く続け、発展して頂こうと思っているが、市民の活動団体の希望にかなうことができず、私たちの気持ちが通じていないことは残念である。市としては、小さなものから大きなものまでさまざまな文化活動への取り組みが継承・発展し、市を代表する文化活動となってほしいという思いはある。財政的な支援は厳しい面もあるが、できるかぎり担当課において協力はできるのではないかと考えている。

部会長	文化・芸術の振興については、63頁にある「門真市文化芸術振興基本方針」において具体的なことが出てくるのではないかと思う。
委員	文化と教育がどのように連携していくのかが必要である。是非、教育と文化をどのように絡めていくかを検討してほしい。
部会長	文化活動を活発にするなど、市役所の中でも文化を創ってほしい。また、文化・芸術については、生活に余裕が出てこないと難しい面もあるが、情熱ある人の文化活動を応援することから少しずつ始めていけば良いと思う。
委員	自分が知らないものに応援しようという気持ちにはならないので、大人になった時に少し応援してみようかと思う気持ちになるよう、子どもの頃から文化・芸術に親しむことが重要であると思う。
事務局	人権について、女性、子ども、老人、障がいのある人など社会の弱者に対してと思うが、活動は同和問題に重点がおかれているように見える。 全ての人権を尊重するという対象にしている。これまで時限立法があったので、同和問題を中心に取組んできた面もあるが、法律の時限も過ぎ、今は、同和、外国人、男女、障がいのある人など全ての人権について、それぞれの啓発週間などがあり、その際に広報などで、それぞれの人権について啓発を行っている。

◇事務局より門真市第5次総合計画<基本計画>（案）基本計画各論第5章について説明

（本案に関する意見）

発言者	内容
委員	健康については、行政もさることながら、散歩やカルチャーセンターに行くなど、生活習慣病にならないように市民一人ひとりの志が大切ではないかと思う。
部会長	健康については、行政に依存して実現できることではなく、市民一人ひとりが自らの健康は自らつくり、守るという志が大事であることをどこかに記載願いたい。
委員	広報やインターネットを見た人だけが利用しているというのが現状であり、広報やインターネットだけでは利用者は少ないと思う。知らない人は全く知らないという現状は打開してほしいと思う。
部会長	関心ある人と関心の無い人は二極化していると思う。
委員	健康は、生活習慣病の予防や改善について、市民一人ひとりの志をもって運動をすることが大切だと思う。指標として、「ウォーキングをしている人」などを加えて頂きたい。
委員	来年、第二京阪道路が開通するが、PM2.5（微小粒子状物質）についてアメリカ並みの基準になる。しかし、この基準をクリアーできているところはほとんどないらしい。このPM2.5は非常に健康被害に大きいという研究がなされている。第二京阪道路ができることによるプラス面は多々あると思うが、マイナス面の一番大きな点は、現状でも基準をクリアーしておらず、発癌物質であり、喘息の一番大きな原因でもあるこのPM2.5が増えるのではないかと心配している。門真市としても、しっかり調べて頂き、悪化傾向になれば直ぐ対応しないとイケないと思う。
部会長	自動車の排ガスについては、東京都などでは独自基準の規制もなされている。わが国の方が厳しい基準であったり、逆に緩い基準もあったりする。問題を抱えることになるかもしれない門真市として、国、府への対応を要請していくことも重要な課題である。

68 頁に医療費の抑制のためにジェネリック薬品の使用とあるが、厚生労働省は推奨の立場であるが、医療機関からは危惧する声もある。ジェネリック薬品を子どもに使用して症状が悪化し、元の薬で改善したという事例も聞いている。ジェネリック薬品の成分は同じであっても、吸収速度が異なるなど、元の医薬品と全く同じというものではなく、記載の方法を少し検討した方がよいのではないかと思う。

識者の間では、医療費の抑制が医療崩壊を招いたとの共通認識になっており、「医療費の抑制」というより、もう少しトーンを抑えた「医療費の適正化」などにした方がよいのではないかと思う。

71 頁に記載することが適切かどうかは判断頂きたいが、市内には1階が車庫等になっており、居室を持たない3階建て住宅が多い。このような住宅では、2階、3階が居室になっており、介護のヘルパーが外に出そうと思っても一苦労し、大変である。そのため、外出もしにくいという問題を抱え、ますます介護状態が進むという悪循環となっている。市として介護がしやすい住宅を促進していくことをどこかで記載して頂ければと思う。

74 頁に保健所が作成した「もりぐち・かどま健康 21」が記載されているが、必ずしも市民の間で認知度が高くないので、「守口保健所が作成している『もりぐち・かどま健康 21』」のように記載した方がよいのではないかと思う。

75 頁には「健康づくり推進体制の充実」では食育推進などいろいろなことが書き込まれているが、たばこのことがふれられていない。喫煙率を下げることでより健康への影響は格段に良くなるので、全くふれないというのはどうかと思うので、是非、記載して頂きたい。

75 頁の「保健サービスの充実」の指標として「肺がん検診受診率」があげられているが、肺がん検診については専門家の間でも評価が分かれている。肺がんによる死亡を無くすには、検診よりも喫煙率を下げる方がはるかに有効であるというのが専門家の意見の一致するところであるので、ここは検診による効果が分かる「大腸がんの検診受診率」とした方がよいのではないかと思う。

76 頁の医療について、昼間いろいろな医療機関が開いている時に医者にかかれば良いものを、放置しておいて緊急の医療サービスを受けるというような受診のしかたがないよう、「適正な受診を市民として心がけること」をどこかに記載してほしい。

77 頁の指標に「内臓脂肪症候群」という言葉が使われているが、市民の間では「メタボ」という言葉で馴染まれているので、「メタボリック症候群」とした方がよいのではないかと思う。

77 頁の指標に「麻しんの予防接種率」があげられているが、麻しんの予防には1～4期までがある。もし、これを指標とするなら何期のものか記載が必要である。ただ、門真市の場合、1期の接種は比較的多いが、2期の接種率が問題であり、担当課と相談のうえ、2期を目標設定した方がよいのではないかと思う。

委員

ジェネリック薬品について、門真市では国民健康保険の関係で推奨しているが、後遺症、副作用について厚生労働省ではチェックする体制はできているのか。

部会長

一般的な医薬品の副作用等について調査する体制はできている。ジェネリック薬品についても医療機関、役所等からの報告に基づき調査されている。ただ、明確な副作用と言えないことも起こっているようであり、元の薬に戻したら改善されたとの話も聞いており、未だ積極的に利用するには危惧するという医者も多い。ジェネリック薬品も通常の医薬品と安全性は変わらないものから、どうかと思うものまで幅があり、千差万別であるというのが現状である。国によっては本当に安全なものだけを使用促進するということもあると聞いているが、日本の場合、非常に幅があるものをいっしょにしており、

委員	医療機関や薬局が勉強しないと使用の判断が難しい面もあり、結果的には、通常の薬を使用せざるを得ないという声をよく聞く。
委員	ジェネリック薬品については、きっちり説明したうえで服用するということが必要ではないか。
委員	71 頁のシルバー人材センターに関して、高齢の方でもパソコンや手芸ができる人も多く、エコパークの空き部屋などを利用し、これらの人が活用すると有意義になるのではないか。
委員	学校の空き教室を使って、収入的に安定する手仕事が身に付けられるよう、刺繍や編み物、手芸を教えてあげてはどうか。それをボランティアがなかなか集まらないのであれば、そういったことを教えることができる人がシルバー人材センターに登録したらどうかと思った。
委員	生きがいや時代に合う子育てにもつながり、文化の底上げになるのではないか。
部会長	有意義であるので、この計画に書き込むか、下位の計画に書き込むかも含め、是非、検討頂きたい。
委員	68 頁の国民健康保険収納率が示されているが、こんなに高いのか。
事務局	一時期は 70% 台中盤まで落ち、全国、大阪府の中でも低い状況にあったが、直近では 80% を超え、相対的にも門真市より低いところも出てきている。
委員	母子家庭など払えない人を除いた値か。
事務局	減免される方は除いた本来払って頂くべき人の収納率である。
部会長	80% というのは決して高い数値ではない。
事務局	80% というのは決して高い数値ではなく、それぞれの収支改善計画の中で国民健康保険の収納率の向上も目標に掲げており、現在のところ目標に沿って順調に推移している。
委員	もし、がんなどが増えると、医療費はかかるが払えないという人が増え、収納率も落ちるのではないかと思う。健康保険をだめにしてしまう可能性もある PM2.5 などについて、国などに要請できる部分であるので、勉強をして頂いて、対処してほしい。
部会長	国民健康保険制度は、収入に応じた負担が根本的にアンバランスになっており、門真市に限らず問題を抱えている。支払いたくても生活するうえで他に払わないといけないものがあり、払えないという世帯もあり、その点の理解も必要である。
委員	委員から部会長あてに私案として、概要版を作る際の見本の提案を頂いている。内容等も含め、この提案については部会長が預かることでよいか。 特に、異議もないので、この提案について部会長預りとする。
委員	シンプルで小学生でも分かるようにするには、技術や研究が必要であり、分かりやすいものにするにはレベルの高いものになるので、その点はうまく対処して頂きたいと思う。
部会長	子ども会議で出ていたごみのポイ捨てを無くすことや、のびのびと遊べる公園を、子どもとともに、どう実現していくかを考え、実現することが必要である。ごみのポイ捨てを無くすことでは、自分たちができることを考えさせ、ポスターなどをつくることや、公園については、子ども会議に積極的に参加した子どもたちの期待を裏切らないよう、市として場所をまず確保し、一つでもよいから、子どもたちが望む公園を実現するなどが大事ではないか。
部会長	子どもたちが将来まちづくりに積極的に参加するきっかけになると思うので、子どもたちが言ったことを実現し、充足感を満たしていくことが重要ではないかと思う。そのため、是非、実現できるところは実現するという方向で検討をお願いしたい。

委員	学校について、先生は府の採用であり、高校も府立であるが、小学校も中学校も高校も門真にある以上、良くしていかないといけないということが必要と思う。難しい面も多々あると思うが、高校の中退者についても、介護の方に行けるような教育など、アイデアを出して頂いて、何か工夫した施策をとりあげて頂ければと思う。
部会長	日本の場合、落ちこぼれないようにということで、落ちこぼれた場合に戻ってくるシステムがあまり育ってないところがある。その点については国をあげて対処していかなければならないところだと思う。門真市の中で工夫ができ、実行できるなら素晴らしいことであると思う。
委員	覚醒剤については、メディアなどの情報によると、中学校の先輩と後輩の関係が強いと、中学校に広がる可能性があるというようなことを聞いた。
部会長	覚醒剤については保健所というよりは警察であると思うが、薬剤師会等が協力して薬の適正使用という話の中で、覚醒剤についても啓発をする必要があるかと思う。しかし、供給側のマンパワーの確保が必要であることや、受け入れ側の学校の方もゆとり教育の中で時間をさかなければならない。薬剤師会等で「薬育」として取り組んでいくことが考えられる。地道であるが、学校教育の中や青少年が集まる場でのポスター、影響力の大きなタレントなどを活用するなどにより啓発していくというような方法があると思う。

#### 案件2. その他について

◇事務局から次回第4回審議会第1部会を10月8日（木）午後2時から第2会議室において開催することについて説明

閉会（部会長）